

診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業

学習会

～よりよい院内調査の進め方～



2011.8.2(火)
東京大学医学部附属病院 入院棟A 15F大会議室

【主催】
一般社団法人 日本医療安全調査機構

平成 23 年度「学習会」～よりよい院内調査の進め方～を開催いたしました。

「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」においては多くの方々のご協力により 140 例の経験を蓄積してきたところです。今年度は、新たな調査分析方法として、各医療機関と協働して調査分析する「協働型」を実施する予定です。

そのため、今回は、「院内調査のあり方」を共に学ぶことを目的として、「よりよい院内調査の進め方」というテーマで、8 月 2 日(火) 13 時～16 時に東京大学医学部附属病院大会議室において学習会を開催いたしました。

当日は大阪、愛知などの遠方からのご参加もいただき、会場(定員 80 席)は満席となりました。その中で、「医療機関の取り組み」として、東京医科大学 医療安全管理学主任教授 相馬孝博先生からお話を伺いました。日頃の実践を織り交ぜながらのお話は、院内調査におけるポイントを押さえつつも、院内調査が一筋縄ではいかないことの難しさを改めて痛感させられるものでした。

続いて、武蔵野日赤病院の専従医療安全管理者 杉山良子先生に進行をいただき、参加者の声を時間の許す限りでうかがいました。院内調査の歴史はまだ浅く、これから討議が尽くされていかなければならないことと思います。時間の関係で十分な意見交換がかなわなかったことは残念ですが、今後も引き続きこのような機会を企画していきたいと思っています。

一般社団法人 日本医療安全調査機構 「学習会」 次第

～よりよい院内調査の進め方～

日時：平成 23 年 8 月 2 日（火）
午後 13 時～16 時

会場：東京大学医学部附属病院
入院棟 A 15 階大会議室

御挨拶

診療に関連した死亡の調査分析モデル事業

中央事務局長 原 義人 （青梅市立総合病院長）

【第 1 部】 13:05～14:35

院内調査の進め方

～医療機関としての取り組みの実際～

東京医科大学病院 医療安全管理学主任教授

相馬 孝博 先生

< 休 憩 15 分 >

【第 2 部】 14:50～15:30

院内調査に関する質問・意見交換会

進行 武蔵野赤十字病院 専従医療安全管理者

杉山 良子 先生

【第 3 部】 15:30～16:00

診療に関連した死亡の調査分析モデル事業「協働型」についての説明

中央事務局長 原 義人

（青梅市立総合病院長）